特集に当って

山下　達哉

芸術の歴史は，リアリズムとシンボリズムの歴史であるという．存在の実態をありのままに見つめようとする眼と，これを抽象化し，象徴的に知覚しようとする意識の交流である．この世界を生成変化する自然現象のうちにとらえようとしたギリシャの自然哲学では存在の根源としてのアルケー（原質）に2つの考えがあった．デモクリトスの機械論的アトム説，アリストテレスによる自然のなかの実体的個物の認識に対するに，ピタゴラスによる抽象的な数，ソクラテスによる人間固有の魂の存在，プラトンのイデア論という思潮である．西欧哲学思想の源流である．われわれに求められているのは「複眼の思考」である．

意思決定のあるところ，ORがある．ORは実践の科学である．「複眼のOR」それはたゆまぬ理論面の開拓，その実地への適用，実践を通した理論の再発展であろう．実践は理論の鏡である．

近時，ORのフロンティアは，学際的にますます拡がりをみせ，成熟局面にある伝統的分野に加えて，新しい理論，手法，システムとその適用分野が突破口を開いてくる．隣接する諸科学の発展もいちじるしい．理論と実践の交流にも新しいパラダイムが求められている．このたび，本学会の事例研究奨励賞の中に新たにソフトウェア部門賞が新設された．実施研究をよりいっそう推進するためには，今後も各種の施策が当学会として必要になるであろう．

本誌でも，こうした問題意識のもとに，2つの対策をとってきた．その1つは，毎月号に事例研究論文を継続して掲載することである．幸いにして，多くの方々の積極的なご努力により，ほぼ定着しつつある．投稿も増えつつある．今後とも，会員各位の積極的なご協力を期待したい．第2は59年春季研究発表会における発表をもとに論文としてまとめていただき，昨年の10月号を事例研究特集号として試みたことである．モニターの方々からお寄せいただいたアンケートより判断するにこれも1つのアプローチであると考え，今月号は昨年の秋季研究発表会の発表のなかから5編を論文としてご執筆いただき，再び事例研究特集号とした．

数多くの発表のなかからの選択はむずかしい課題であったが，特定の分野，手法にかたよらないように，またご執筆いただいた方も学界，産業界のバランスをとりつつ，下記を選ばせていただいた．(1)地域計画，社会システム分野で，北洋漁業の根室地域経済におよぼす影響のシミュレーション，都営バスのバンチング発生原因の調査研究の2編，(2)最適化手法を用いたものとして，貯水槽から調整水槽に送水する複数の並列ポンプステーションの仕様決定，電力損失を最少にする樹状配電系統をもつ変電所の供給区域決定の2編，(3)ネットワーク手法として，一般ネットワークにおける単一施設の配置を拡張した複数施設の配置問題である．なお，この他に最終的に辞退された複数の論文があった．

ご執筆に当っては，秋季研究発表会以後の進展もとりいれつつ，理論の実地適用上のポイント，特に工夫された点と注意点，今後の課題，実地への適用に当り，会員，読者に示唆する点などをカバーしていただいた．ご多忙中にもかかわらず，快くお引き受けいただいた執筆者各位に厚く感謝する．他の多くのすぐれたご研究については，ご執筆いただけなかったことをご容赦いただきたく今後とも事例研究へのご投稿，ご執筆を重ねてお願いする次第である．

（やました　たつや　日本アイ・ビー・エム㈱）

© 日本オペレーションズ・リサーチ学会．無断複写・複製・転載を禁ず．